

# サイコロ

ISHIKAWA MERIYASU MAGAZINE

Special Feature

## “ メリヤス工場の試作室 ”



### Column

私と石川メリヤス

### News

会社案内と商品カタログが新しくなりました



1.



2.



3.



4.

## 社員全員が商品を企画販売もできる「試作室」

多品種小ロットのOEM生産と先代社長が開発したヒット商品「ラブヒール」によって石川メリヤスは安定経営を続けられてきました。しかし、人口減少やコロナ禍、原材料価格の高騰などで今後は「現状維持」すらできないことが明らかになっています。

同じことをやっていたら私たちはじり貧だ、みんなが欲しいと思えるようなものを作り上げて販売してみたい、という機運が数年前から社内を高まっています。それを形にしたのが「メリヤス工場の試作室」。石川メリヤスのオンラインショップ上の商品カテゴリーです。

オリジナルの商品を企画開発するためには多大な労力と時間、費用が

かかります。パッケージを考案し、販路も確保せねばなりません。一方で、「試作室」商品のパッケージはほぼ共通のシンプルなもの。自社内のオンラインショップで「ちょっと売ってみようか」とチャレンジすることができます。

商品を自ら考えて生産して販売する姿勢を会社全体に根付かせるため、昨年は社員全員がオリジナルの手袋を1つずつ考案して制作するという研修を2日間に渡って実施しました。特に優れていた「車内拭き手袋」と「ホイール磨き手袋」を商品化。メディアにも大きく取り上げていただき、カー用品店からの注文を受けることもできました。現在もオンラインショップで好評販売中です。

商品のアイデアは1人1つとは限りません。今年は企画書の応募箱を設置し、1人で何枚でも入れて良いことに

しました。リーダー会議で選考を行い、実現可能そうな企画を社内に掲示。その制作に参加したい人を募り、チーム制で研修を行いました。今年もユニークな商品をネット販売できそうです。

この試作室は社員全員が参加できる商品開発と販売の場ですが、もう1つの役割があります。倉庫で長く保管している残糸（デッドストック）の有効活用です。例えば、アパレルメーカーからのOEMで使った防寒用手袋の残糸で、レッグウォーマーやスノードを開発しました。冬の定番商品になりつつあります。2020年のヒット商品となったニットマスクも最初は残糸を利用して生産しました。

試作とテスト販売を繰り返すうちに見えてきたこともあります。それは、作業用手袋の生産を祖業とする私たち

1. 商品企画シートと実際に試作した商品例  
鍋つかみ、日焼け対策手袋、コースターなど、「使い手目線」のニット小物を社員全員が発案。商品化を目指している。
2. 幹部社員による商品化検討会議  
実用性や販売価格などの各方面から検討。スタッフが着用している「ニットのプリーツマスク」も試作室発の商品。
3. 糸見本  
商品化のためには素材を確保することが必須。どの糸のどの色がどれくらい必要で、仕入れが可能なのかも検討する。
4. スヌード  
試作室から生まれた初期の商品。ガータ編みと天竺編みを組み合わせて編むことでコンパクトに仕上がった。

石川メリヤス オンラインショップ

<http://ishimeri.net>

<メリヤス工場の試作室>のページ  
<http://ishimeri.net/?mode=f6>



は「ファッション性」よりも「機能性」の追求が得意なこと。結果として独自のデザインになりますが、流行や見た目だけを重視はしません。

例えば、息の吸いやすさと肌触りの良さを目指して開発した「ニットのプリーツマスク」。生地に凹凸が出る編み方を採用したことで期せずして美しい曲線が生まれ、取引先のデザイナーさんから「機能美ですね」と言っていた。石川メリヤスらしいモノづくりとは何かを考えるきっかけとなりました。

「メリヤス工場の試作室」は取引先との協業のきっかけとなる場でもあります。「この商品を少しアレンジして別注生産をしたい」「うちにも残糸があるので一緒に新しい商品を作れないか」といったお問い合わせをいつもお待ちしております。

## 私と 石川メリヤス

1962年設立(創業は1957年)の石川メリヤスは2022年に創業60周年を迎えました。長くお世話になってきた方にお話を伺うシリーズの第2回は青木秀益さんと良廣さん。岐阜市柳津町にある染色工場を運営されているご兄弟です。青木染工場と石川メリヤスとの取引は40年以上前に遡ります。

昭和50年頃のことです。旭化成が開発した新しい糸を使った、よく伸びるカラフルな手袋が大ヒットしました。御社とのお付き合いはその原料のCSYの染色に携わってからです。先々代(創業者の石川進)と、うちの先代(青木良祐さん)、他に6社ほどが集まって手袋の製作と販売に取り組みました。

先々代は、「足し算で売れるモノ」を作るという考え方ができる方でした。素材、撚糸、染めなどの各社が希望する値段を足した価格でも売れる、よそにはないモノづくりです。だから、みんなが腹八分目で稼げました。

工場経営の理想は、常に機械を100%稼働させることです。しかし、冬物衣料向けの染色がメインである弊社は2月から8月が忙しく、その後の5か月間は機械が空いていることもあります。そういう時期に、将来的に使う糸の染色を注文してくれるような関係性のお客さんが数件あり、御社はその大事な1社です。

御社とは商売上の駆け引きがありません。どうやったらお互いにメリットが出るのか。腹を割って話せます。うちの先代は御社の先々代、僕は先代(石川君夫)にお世話になりながら、そういうスタンスで付き合い合ってもらって来ました。これからも関係性はまったく変わらないと思います。



青木染工場にて。秀益さん(左)と良廣さんは、会社の宴会ではKinKi Kidsの曲を2人で歌って盛り上げるそうです。

## News

### 会社案内(冊子)と商品カタログ(デジタル)が新しくなりました

使う人のためのモノづくり。石川メリヤスの商品開発と生産の姿勢は創業当初から一貫しています。企画、編立、仕上げの各工程も大きく変わることはありません。取引先に当社の姿勢を理解していただくため、また、人事の採用活動にも役立てるために会社案内の冊子を作りました。

一方、商品は世の中の変化に対応して、常に改良と入れ替えを行っています。最新情報を間違えなくお伝えするために商品カタログはデジタル化を進めています。随時更新していますのでご活用いただけますと幸いです。



PCはもちろん、スマートフォンやタブレットでもご覧いただけるデジタルカタログ。上記のQRコードを読み込んでお使い下さい。

## Editorial Note

芸術作品を鑑賞する際には作家の経歴や人柄を知りたくなります。最近、野菜にも農家の情報が付されることが増えました。工業製品も突き詰めると「人」に当たります。製品を企画し、機械を操り、後処理と検品をして包装する。すべてに人間が携わっています。私たちの工場で生み出すニット製品は肌に直接触れるものです。「身に着けて気持ちがいいのか」「使い勝手が良くて長持ちするのか」などに作り手の人間性が如実に表れます。今号の特集では、「使う人のためのモノづくり」を掲げる石川メリヤスで働く「作る人」に焦点を当てました。私たちのキャラクターを知っていただければ幸いです。(大宮裕美)

### 期待の新入社員を紹介します 正社員を引き続き募集中です

今年5月に待望の新入社員が2名入りました。尾崎<sup>かいと</sup>開人と加藤百恵です。主に編立工程に従事している尾崎はいつも明るく元気。工場全体の流れを把握して機械を段取りよく動かすためには、周囲との円滑なコミュニケーションが不可欠です。尾崎にはそのために必要な素直さがあり、みんなで期待しています。

加藤は仕入れと生産指図を覚えている真っ最中です。社内外の様々な人と連絡して原料糸の調達と生産の道筋を作っていく業務で、人の話をしっかり聞いて咀嚼しつつ自分の考えを持つことが重要。彼女には適性があると感じています。

石川メリヤスでは一緒に働いてくれる人を随時募集しています。ニットを使ったモノづくりは面白く、その可能性は無尽大です。ご興味ある方は以下までご連絡ください。



尾崎くんの趣味は卓球。後輩たちと市民大会に出場しています。加藤さんは買い物好き。「今欲しいものは通勤用のバッグです」

## Credit

編集・執筆・発行 石川メリヤス有限会社  
Art direction & Design 相田貴子 (Consulting Design Tokyo)  
撮影 東畑賢治・石川メリヤス有限会社

2022年8月発行

### 冊子名『サイコロ』とは

「メーカーの基本は何よりも品質」。  
初代社長の想いが込められた創業以来の作業用手袋「サイコロ印」のブランド名から名付けました。  
本冊子では、この精神を守りつつ、石川メリヤスの「いま」をお伝えします。

商品問い合わせ&注文先

## 石川メリヤス有限会社

〒444-0515 愛知県西尾市吉良町富好新田紺屋堀 27-2  
TEL 0563-32-0420 FAX 0563-32-3066  
E-mail info@ishimeri.com URL https://ishimeri.com